

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	3770700098
法人名	株式会社メディカル・ケアサービス
事業所名	グループホームミモザ園
所在地	香川県東かがわ市白鳥1754番地1 (電話)0879-25-6100

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年1月23日	評価決定日	平成21年2月10日

【情報提供票より】(20年12月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年11月1日
ユニット数	3ユニット	利用定員数計 27人
職員数	19人	常勤 14人, 非常勤 5人, 常勤換算 18人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 平屋建て
------	--------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,650円	その他の経費(月額)	4,740円	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	210円	昼食	420円
	夕食	420円	おやつ	0円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月15日現在)

利用者人数	26名	男性	4名	女性	22名
要介護1	2名	要介護2	7名		
要介護3	8名	要介護4	7名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	75歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	太田病院 角歯科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高松自動車道、白鳥大内インターのすぐ近い緑あふれる池の畔でミモザの花が
つぼんでいる。大変環境に恵まれたグループホームである。玄関を入ると広いホー
ルが在り、天井は青空と雲が描かれ八角形になっている。その天窓から差し込む
光のやさしさと床暖房の暖かさが利用者に安心感を与え、全体的に温もりが感じら
れる。さらに清潔感を感じさせられ、明るく、ゆったりとした雰囲気である。「みんな
一緒に、育む幸せ」を基本理念として、ゆとりのある空間、生活時間、生活行動範
囲も利用者の意思、生活ペースを生かす支援をしている。協力医療機関のバック
アップもあり、運営者、管理者のもとに職員、利用者、家族が信頼をよせている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で理念の具体化について日常のケアにどう生かしていくか模索中である。地域密着型サービスの事業所の在り方として困難な条件もあるが努力中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、ユニットリーダーが中心となって取り組んでいる。今後全職員で取り組まれることを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議での討議内容は、活動内容、事故発生報告、苦情報告などである。メンバー構成を地域の広範囲の代表者を考え、地域密着型のホームに近づくように工夫されることを期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>グループホーム内に苦情箱は設置していないが、意見、苦情、不安などは家族の面会時に話し合う中でうかがっている。苦情に関してはユニット間で話し合い、記録し改善に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の自治会に加入し、行事にも参加している。施設内のイベント、夏祭り、敬老会、クリスマスイルミネーション点灯などに参加してもらい交流を持っている。現在地域の方がボランティアで庭に木を植えてくれている。今後ミモザ園ができてよかったと言う応援団を増やし、なお一層連携を密にとることを期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念「みんな一緒に、育む幸せ」を掲げ利用者、家族が地域の中で安心して介護が受けられるように、日々取り組んでいる。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について職員は理解し取り組んでいるが、これを日々の実践の中でどう具体化していくのか、検討、実践までには至っていない。	○	事業所の理念「みんな一緒に、育む幸せ」について職員は「家庭的雰囲気」を大切に取組んでいる。「家庭的雰囲気」を実践の場でどう具体化していくのか、例えば「馴染みの関係」を大切になど職員で話し合っ実践していくことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々が大正琴、日舞など訪問してくれている。また、地域の花見、神社への参拝などを通して、地域の人達との交流に努めている。	○	今後施設に来ていただくだけでなく、積極的に向いて交流を深めていきたいとの意向がうかがえるので、自治会に加入できたことから地域の運動会、ウオークラリー、保育園の発表会などに参加し、さらなる交流が深められるように取り組むことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については5回目ということもあり、理解していると思われるが、継続的取り組みについては生かされていないと思われる。	○	自己評価について職員全員で取り組む方法を検討し、実践に移すことが望まれる。例えば職員が分担して自己評価を記入することにより、色々な気づき、反省点など実践の中で具体性が見えてくると考えられるので、時間をかけて取り組むことを期待したい。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定着しているが、変化に乏しくなっているのではと思われる。状況の報告についてもトップダウンの状態、意見交換や改善会議なども十分に行われていないと考えられる。	○	運営推進会議の活性化の一つとしてメンバーについて意見を聞きながら、地域密着型を考慮し、例えば地域の民生委員、婦人会会長の参加をいただくなどにより、活性化につながるのではないかと考えられるので検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員の施設見学の受け入れなど連携がもたれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1か月の状況報告用紙をつくっており、これに詳細に記入し、ミモザ園便りと共に、定期的に報告している。また、面会時や電話での報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に大きな問題は出ていない。細かいことは職員に直接言うので、その都度改善している。運営推進会議でも特に家族からの不満、苦情などは出ていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者の方針で全職員がユニットを超えたチームプレイ方式を取っているため、ユニット間の異動が多いと思われる。	○	利用者の馴染みの関係という点から、また職員もやつと利用者を理解できたというところで異動ということは負担が大きいと考えられる。3ユニットの利用者と顔馴染みになるという点では、ホールなどで行動を共にしているのでできていると思われる。個別性を尊重したケアが求められていることから、利用者、職員にとってのダメージを考えて検討されることを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同じ系列のグループでの勉強会は毎月行われており参加している。外部の研修会に参加する機会が少ないと思われる。	○	段階に応じた研修計画を立てて、外部の認知症研修などに参加する機会を持ち、職員の質の向上と共に、意欲向上にもつながると考えられるので、今後の取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列グループのネットワークや勉強会はしているが、同業者との交流は行われていない。開設5年を経過し同業者も増えていることから、今後交流の機会を持つことにより、情報交換、学びあう機会になると思われるので、積極的な取り組みを期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者に合わせて、見学に来てもらったり、雰囲気馴染め職員とのいい関係を持つようにし、徐々にサービスを開始するように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意思を大切に、一人ひとりに合った言葉がけ、特に強制、命令口調はしないように心がけている。また、一方的に介護しない。例えば歩行速度など利用者に合わせて実践している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のカンファレンスで本人の希望や意向を取り上げ検討している。思い出の品、写真などを持ってきてもらう。利用者本位とし危険、暴力行為以外は本人のしたいようにできるだけ尊重し対応している。(例えば、寝てほしい)		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のユニット内のケアカンファレンスで話し合って計画を作成している。常に情報を持ち寄り相談し、意見やアイデアが反映されるよう取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要時、その都度見直しが行われている。本人、家族、関係者と話し合って現状に即した見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望は、その都度要望に向き合い、日々の生活が楽しくできるように柔軟な支援ができるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関やかかりつけ医に受診できるよう支援している。母体病院の利用者が多く、受診については職員が対応し、個人的かかりつけ医に関しては家族が対応している。受診の結果や経過については記録し、家族への報告が確実にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときの対応については、「重度化対応、終末期ケア対応指針」が作成されており、これに基づき家族、本人に説明し、意向の把握に努めている。協力医療機関が近くにあり、状況にあわせてその都度話し合いをし対応できる体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては職員に周知徹底し、記録の管理、保管場所を決め対応している。申し送りに関しても、なるべく利用者のいないところできるように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活パターンから利用者に合わせて時間で、一日の流れは自由にしている。職員間での情報交換、申し送りなどを参考にし、その人のペースに合わせて関わりをするように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADL(日常生活動作)に応じて準備、後片付けなどに参加している。気の合う利用者仲間と同じテーブルで食事したり、職員も一緒に食べている。また、嗜好品(酒、おやつ)など家族に持参してもらい、職員が預かり適宜出して楽しんでもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	定期的には夏は週3回、冬は2回、最低週2回は入浴するように希望に応じ、午後実施している。現在夜間入浴の希望者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人にあった役割、例えば洗濯物を干す、食器の水拭きなど家事の中でできることに参加してもらっている。また、習字、裁縫、生花、畑など利用者個々の物を支援し楽しんで貰っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候のいいときは自然環境に恵まれた施設の周囲を散歩している。遠出に関して(墓参りなど)は家族が対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出ると坂、ホームの近くにはため池が在り非常にリスクが高く、以前に危険な事例があつたため、やむをえず玄関に施錠、外からは自動ドアで入れるが中からは出られないシステムになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練については職員で1回、消防署と共にするのが1回実施されている。同系列内の病院、老健、ケアハウスなどとの援助関係はできている。	○	火災、地震など災害時に隣近所の協力は必須と考えられるので、自治会に加入できたことをきっかけに、近隣住民との連携が図れるように、さらなる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連病院の管理栄養士が献立を作っている。利用者の状態に合わせて調理されている。また、希望を聞き適宜献立を考慮しながら変更し対応している。3ユニットで例えば、ばら寿司を作る、煮物を作る、味噌汁を作るなど分担して調理し効率よく運営している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると広い共有のホールがあり床暖房である。また、各ユニットの居間兼食堂の部分も床暖房を取り入れ、自然の暖かさで心地良い。掲示板には利用者の作品(習字)、折り紙で作った作品などを飾り、明るく、楽しい雰囲気づくりをしている。風呂、トイレも清潔が保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設ではベッドのみ設置し、その他の物は全て使い慣れた物を各自持参してもらっている。居室は個別性があり家具の配置も本人の意向を取り入れている。		